

令和7年1月23日

日立理科クラブ通信



No. 237

日立理科クラブ

「理科室のおじさん」を訪ねて2 日立市立大沼小学校

今回の「理科室のおじさんを訪ねて」は、大沼小学校（坪聡子校長）の荒岡 学（あらおか まなぶ）さんです。

荒岡さんは九州の出身です。小学校の頃は熊本大学の近くに住んでいて、大学のキャンパス内で遊んだり、裏山で遊んだりしました。イモリやカエルをよく捕まえたそうです。

理科クラブに入る前は、日立製作所大みか工場で工業用の電子計算機のハードウェア設計を担当していました。当時の最先端の仕事をしていました。

理科室のおじさんになって、学校では「荒岡先生」と呼ばれ、児童にとっても親しまれています。理科の実験や休み時間に、子どもたちの元気な姿に出会えることがとても楽しみです。

いつも理科室で、学年ごとの実験の準備を進めています。この日は、児童一人一人が電磁石を作れるようにエナメル線や電池などを準備していました。

荒岡さんは、実験がスムーズに、安全に進むように、教科書や先生の疑問、失敗例などをもとにして、実験の手引きを作成しています。それを毎年見直して改訂しています。自分にとっても勉強にもなるとおっしゃっていますが、何よりも先生方にとって役に立っていると思います。先生方との連携では、手引きを提供するとともに、職員室に小さなノートを用意していて、先生方の希望に添えるように準備しています。

また、マイクロビットは得意で、今年も6年生3クラスに、マイクロビットの学習を行ったそうです。準備等は大変ですが、児童の反応を見て充実感を味わったそうです。

子どもたちに伝えたいのは、授業を楽しんでもらいたいということです。楽しくなければ理解は進まないし、進んで勉強することで児童自身の可能性が少しずつ広がっていくと思うからです。

廊下には、「おおぬまわくわくかがくかん」をつくって、おもちゃや化石などが展示されています。理科室の場所が奥の方にあって目立たないのですが、ぜひ多くの児童が見たり遊んだりするようにしたいと話しています。

最後に、大沼小学校のよさを聞きました。児童たちは授業開始と終了時には元気な声で挨拶していることと、校内ですれ違ったときも元気に挨拶してくれることと話してくれました。この日、グラウンドや廊下で出会った児童は皆元気よく声をかけてくれ、荒岡さんの言うとおりでなと思いました。

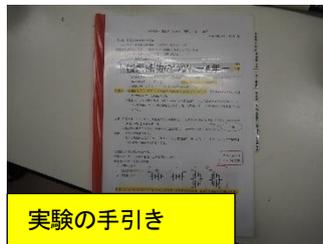
校内には、ビオトープがあって、児童が主体的に整備しています。また、校庭からは、大きな風力発電のプロペラが見えます。環境やエネルギーを考える機会にも恵まれているなと思いました。



「理科室のおじさん」荒岡学さん



実験の準備



実験の手引き



わくわくかがくかん



ビオトープ